

内製化★進路相談

成功事例からみる内製化に向けた体制づくりのカギ

超サポ
愉快カンパニー

アシスト

アジェンダ

- 内製化とは？
- 内製化におけるメリット、デメリット
- 内製化の価値
- 内製化を目指すうえでの阻害要因
- 内製化の成功事例
- 内製化のカギ

製品の構成、および稼働環境は予告なく変更される場合があります。
最新情報につきましては弊社までお問い合わせください。
記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

※本資料は、バージョン「8.2.07」の情報をベースとして作成されています。



内製化とは？

一般的には、外部に委託していた業務を自社で行うこと

今回のテーマでは、

1. 自社員（派遣・契約社員も含む）で **企画・推進・全体管理** ができる
2. 自社員で **ユーザ部門とのコミュニケーション** を図ることができる
3. 1 と 2 の前提のもと、**内製化業務の一部を業務委託** している場合も含む

※ 派遣・契約社員は指揮命令系統が自社にあるため、自社員とみなしています。

とします。

内製化におけるメリット・デメリット

メリット

変化に強い



デメリット

属人化
コスト増加



内製化におけるメリット・デメリット

メリット

- 自社で完結することが増え、ユーザーズが拾いやすくなったり、リードタイムが早くなる
- 内製化に必要な企画、推進、開発、管理のノウハウを蓄積できる
- 効率化によって、コスト削減や費用対効果が見込める場合がある



デメリット

- 役割を意識した体制ができていないと属人化しやすく、役割が曖昧になりやすい
- 自社員のリソース確保が難しく、育成に時間とコストがかかる
- 外部からリソースを確保した場合に導入、維持運用コストがかかる



出来上がったものに価値が見いだせないと
内製化に対するデメリットが大きく見えてしまう・・・

内製化の価値

前例がないほど企業を取り巻く環境が大きく変わりつつけている今・・・

**変化に伴って発生するニーズに
素早く応えていくための体制と仕組み作りが重要**

自社で内製できるリソースを保有することで
状況の変化が起こっても臨機応変に対応できるため
短期間でのリリースや改変を可能にし
自社のやりたいことを実現・推進できる

内製化を目指すうえでの阻害要因

インフラや データの整備

専門性が高いスキルほど、自社で維持するハードルが高くなる

リソース不足 (人、リテラシー)

自社で育成しようにもコストがかかれず、外注しようにもお金が出せない悪循環

属人化

最初は良くても、時間の経過とともに体制維持が難しく、人の異動がおおいと体制がつかれない



縦割り組織

業務部門とのパスがない、またはコミュニケーションがうまくとられていないと、ユーザが見たいものを表現できない

スコープが 不明瞭

何をどこまで自社ですればいいのか内製化の適用範囲がわからない、プロジェクトの目的や対象が定まらない



本コンテンツはサンプルです。
つづきは、WebFOCUS ナレッジサプリー コンテンツでご確認ください。